

第 2 回サービス検討サブワーキング資料

美術館の取組：国立新美術館

国立新美術館
 情報企画室
 室屋泰三

1. 国立新美術館とは・・・

- 2007 年 1 月開館、5 番目の国立美術館。
- 所蔵作品は持たない代わりに、12 室の展示室を持ち、多彩な展覧会を開催
- 所蔵作品にとらわれない教育普及活動、美術に関する情報・資料の収集・提供を行う

2. 現状の取組

- A) 美術館 1F 中央部分にて、フリーWiFi (nact_free_wifi) の提供 (試験運用中)
- B) 交通系 IC カード、クレジットカードでのチケット購入
- C) 電子チケットの導入 (例：<http://www.e-tix.jp/niki2015/>) スマートフォン提示での入場。
- D) 多言語による館内案内
 (英、仏、独、スペイン、中、韓の各国語のフロアガイドをウェブと印刷物として提供)
- E) デジタルサイネージによる情報提供 (各フロアに設置。現状では日本語での案内)
- F) iPad によるインフォメーションカウンターでの案内 (交通案内等)
- G) 全国の美術館等 (1000 館) の展覧会情報を収集・提供 (アートコモンズ <http://ac.nact.jp/>)
- H) 森美術館、サントリー美術館と六本木アートトライアングルを構成。割引サービス等を実施。

3. 直近の課題

- ① フリーWiFi のサービスエリアの拡大
 - 1F アトリウム全体、3F の講堂、研修室、ライブラリー等の館内施設に拡大する。
 - フリーWiFi をより安全に運用する仕組みの導入
- ② デジタルサイネージの多言語化
 - 情報量がより多くなるので、一方向的な情報の繰り返し表示では限界がある。
表示言語の切替等の利用者に応じた双方向的な運用の検討が必要である。
 - 各国語での施設表記 (例えば、「多機能トイレ」) を各館や交通機関と共通化すべきと考える。

4. 将来的なビジョン (こんなことができたらいいな・・・)

- a) 現状の取組の B)+C) の発展形 = 交通系 IC カード利用の拡大
 - 交通系 IC カードの支払い機能、チケット購入のための ID としての利用
 - 交通系 IC カードでチケット購入、交通系 IC カードで移動し、交通系 IC カードで入場する。
- b) 展覧会情報+相互割引情報+交通案内+美術館周辺情報 = 「美術館のハシゴのススメ」
- c) 空港や駅、商業施設等での「日本の芸術文化の豊かさを伝えるデジタルサイネージ」(4K/8K が必須)